

## 新年のご挨拶

理事長 下村 卓司

新年あけましておめでとうございます。平成26年「午年」の始まりです。さて、平成25年度法人方針は、「Challenge & Change For Vision」を掲げてきました。

法人の将来構想に確かな挑戦と変革を成し遂げようという方針ですが、その中身は、4月30日に天然酵母パンを中心に有機・低農薬・地産の野菜を使ったサンドウィッチやスウィーツファクトリーモンステラのお菓子を提供する「ナチュラルカフェ モンステラ」のオープン。9月には「香芝市障害者デイサービスセンターすみれの里」の指定管理者制度による運営委託。そして自閉症者の支援充実を目指し、「eサービス」との契約や川崎医療福祉大学教授重松先生とのスパーバイズ契約でありました。経過は、そのいずれもが順調であり、法人の将来構想実現は前向きに前進しています。

その一方で、ご利用者様の「重度化・高齢化による介護度の上昇」や「自閉症を含む広汎性発達障害者への十分でない構造化支援」など、ゆらぐの里が持つ問題点に対処すべく、障がい者ケアホーム「風鈴山荘」を平成26年春完成予定で計画しておりました。しかし東日本大震災の復興とアベノミクスの影響などで工事費用が大幅に上昇したことが要因となり、一時計画を中断せざるを得なくなりました。その後、理事会評議員会を開催し、業者再選定と設計図面変更により何とか早期に工事が着工できるようにとの結論に至りました。この事業は、今後の法人運営につき是非とも実現しなければならぬものであり、何としても早期に実現する所存であります。

世情に目を移すと4月に消費税増税や様々な税制改革を控え、国内消費が鈍化し、景気の足踏みが起こりそうです。そのような中障害福祉行政は、特定計画相談の本格実施と障害程度区分の改正が始まります。障害者にとって本当に良いケア計画が策定されるのか？地域間格差は無いのか？等々注視しなければならぬ事が山積みです。

昨年自民党政権が政権与党に返り咲き、政治がスピードアップしている事は良い事ですが、社会的弱者にとっては厳しい改革が続いているように感じます。

社会福祉法人として地域の方々と協力し、支え合える地域の創造のお手伝いを今後も続けて参ります。それこそが混迷の現在、我々に課せられた責務と今一度肝に銘じ誠心誠意努力して参りますので、今年もご指導ご鞭撻を頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

## 支援の力、その源

職員さん方の資質向上に対する法人としての主な取り組みに外部講師を招聘しての研修や講習会への参加、年度末にはグループごとに設定した研究課題についての発表会を行う、などがあります。もちろん日常業務を通して行われるOJTも大切なものです。しかし、これらは個々の職員にとってはどちらかといえば受動的なものともいえます。

一方、平成24年9月より「致知」という月刊誌中の寄稿文や対談記事と編集者による論説を題材に読後感想文を書くという取り組みを行っています。その感想文の読み合わせを行い、各々が感銘したことや注目した事、今後の生き方に反映させたい事、感じ取った事等を自由に話し合っています。その話し合いを通してお互いに対する理解を深め、連帯感や共同体意識を醸成することによって法人の運営や活動をより充実したものしたいとの思いがあります。

提供させていただいているサービスが利用者さんやご家族にとって利用しやすいものであるとともに支援の内容が安全・安心を担保し、より信頼していただけるものへとなるよう、更なる研鑽を積んでいきたいと考えています。そして時代の趨勢に能動的に対応し、変革し続けることができる法人であることを目指し、エネルギーの蓄積を図っています。

理事長 下村 卓 司

## 帝塚山大学 外部講師「実習事前事後指導」

法人では、ボランティアや実習生など外部の方を受け入れています。外部の方に来て頂くことにより、

- 「第三者としての貴重なご意見を聞かせてもらうことができる」
- 「障害を持つ方への理解を深めてもらうことに繋げられる」
- 「イベントのお手伝いをして頂き、利用者さん楽しんでもらえる」
- 「利用者さんに職員以外の方とふれあって頂く機会を提供できる」
- 「職員が適切な支援の在り方を意識することができる」
- 「サービス内容の充実を図ることができる」

などの多くのメリットが生まれます。



実習に関して、幾つかの大学や専門学校から依頼を受けているのですが、今回、帝塚山大学より「実習事前事後指導」の外部講師を受け賜りました。実習の事前指導として、「知的障害(碍)の方へのサービス及び施設実習に関して」というテーマでお話をさせて頂きました。講義では、「知的障害の定義や特徴」「知的障害以外の障害について(自閉症、身体障害、精神障害)」「障害福祉サービスについて」「以和貴会でのサービス内容の概要」等の説明を行い、施設実習において「どのようなことをするのか」「留意しないといけないことは何か」などについてもお伝えしました。具体的な事例を挙げながら、利用者さんがどのような生活や活動をされているか、職員がどのような支援を行っているのかについて理解してもらい、施設実習へのイメージを膨らませてもらえたと思います。

今後も実習生の受け入れを継続して行き、障害者福祉に携わる人材を育てることだけでなく、開かれた施設として地域に発信し、障害者への差別や偏見がなくせる社会を目指していきたいと考えます。

ゆらくの里統括課長 中山 寛 基

※施設実習…保育士資格取得のために保育所以外の児童福祉施設や障害者支援施設などでの実習を行うカリキュラム。

## ゆらくの里施設内研修

12月25日

ゆらくの里では毎年8月と12月の年2回、外部講師の方を招いて職員のスキルアップを目的とした施設内研修を全職員対象に行っています。日々の支援や虐待防止のために必要な対人援助スキルなど福祉に関連した研修はもちろん、社会人としての基本的なマナーを学んだり、AEDや応急救護の講習を受けて災害や緊急時に慌てず対応できるように備えたりもしています。

今回は『愛着障害～支援者として「愛着」を理解する』をテーマに、会津大学短期大学部社会福祉学科教授、市川和彦先生を招いてお話を伺いました。市川先生には、以前に障害者虐待防止法が施行（平成24年10月）されるにあたって、ご利用様との関わり方や支援方法について、いま一度学習するため福島県よりお招きし、「怒りのコントロール」<sup>②</sup>「ホールディング（自分の気持ちをコントロール出来なくなったご利用様に怪我なく落ち着いていただく方法）」を御講義いただきました。



『タッチング（触れる関わり）』の技法により日常的な場面での不安やストレスを軽減するためのストローク（腕や背中を摩る）・タッピング（肩を叩く）など、応用としてジェルティーチング（問題行動に対して注意ではなく心配していることを伝える）を行うことで不安定なご利用様に対する対応方法も学びました。

講義で学んだ『愛着障害』については、乳幼児期（特に3歳頃まで）の養育者との関係をどの程度構築してきたか。養育者との良好な関係を築いた経験の無い方、幼少期から長期間施設入所されていた方などには支援者との距離感が近すぎると逆にストレスとなってしまう、距離感が遠ければ疎外感、孤独感を感じてしまい不安定になってしまう…ご利用様が安心できる環境で快い対人関係を日常的に保つことが重要であることが解りました。

また、ロールプレイではシュミレーションが出来たことで同様の状況になった場合の参考にもなりました。日頃の対応が第三者からどう映るのか、どう感じるのかを考えるきっかけになったと思います。毎回の研修で学んだことを実践することで、ご利用様の真のニーズにお応えし、以和貴会の理念でもある『その人らしく、その人なりの人生を支えるために』を実現できるよう、これからも努めていきたいと思っています。



② 「ホールディング」での対応は現行の法律では実施が難しいため  
新たな技法を模索中とのこと。

ゆらくの里 生活支援員 服部優樹

## 以和貴会アート活動

芸術活動を通して障がい者の地位を高め、誰も阻害されたり排除されたりしない社会の実現を目指す運動が広まりつつあります。以和貴会においても、作業をすることでご利用者の機能維持や情緒面の安定を図りつつ、個々の能力・個性を活かした作品制作を支援するとともに、ご利用者の可能性の開拓を目指してアート活動に取り組んでいます。ゆらくの里の活動「<sup>だん</sup>暖」（芸術活動）や「<sup>えん</sup>炎」（陶芸活動）、今人・我楽の「それいゆ」が活動場所となっております。公募展に作品を出展するという形で社会に参加し、作品の販売を行ってご利用者様へ還元を行うことも目標の一つとなっております。

以下4ページにわたって最近のアート活動の成果を紹介いたします。

### 平成25年度奈良県障害者芸術祭 『HAPPY SPOT NARA』プライベート美術館展示

『HAPPY SPOT NARA』とは、障害のある人もない人も楽しめるコミュニティアートフェスティバルで、平成23年度に初めて開催し、今年度で3回目を迎えました。今年も奈良県文化会館での展覧会や東大寺での「ビッグ幡」プロジェクト、奈良町界隈を彩る「プライベート美術館」、舞台表現の最先端を見せる「鹿の劇場」（要申込）など、障害のある人の魅力的な作品をそのプロセスとともに紹介する企画であります。

「プライベート美術館」とは、アートを日常生活のなかで楽しむプロジェクトで、公募によって集まった県内の障がいのある人の作品約150点を、店舗や町家で展示しています。「この作品をぜひうちのお店に！」と各店舗のオーナー、スタッフが選んだ作品たち。奈良県文化会館の展示会場にて「まちあるきマップ」を配布しております。（奈良町界隈及び近鉄奈良駅周辺商店街など）

#### 【当法人参加者及び展示店舗名】

植田隆介さん(今人)	}	mellow cafe	
三谷晃平さん(我楽)			
森 諒平さん(我楽)		cafe WAKAKUSA	
内田千恵さん(今人)			
西谷光世さん(我楽)			菊岡漢方薬局・ならどっと FM
山口裕樹さん(今人)			寧楽菓子司 中西与三郎(和菓子)
吉原茂信さん(今人)			ごはん芽屋

#### 【会期】

平成26年1月25日(土) ～ 2月9日(日) 各店舗の営業日に準じます

## 『第23回全日本アートサロン絵画大賞展』 入選

アマチュア画家を対象にした公募展 『第23回全日本アートサロン絵画大賞展』に今人そ〜じやの山口裕樹さんの「Proliferation III」が自由表現部門に入選されました。

【東京展】 会期：平成26年2月6日(木)～17日(月) ※2月12日(水)は休館  
午前10時～午後6時 最終日は15時まで(入館は閉館の30分前まで)  
会場：国立新美術館 展示室1B  
東京都港区六本木7-22-2 Tel03-6812-9921 (会期中のみ)

【大阪展】 会期：平成26年3月4日(火)～9日(日) ※無休  
午前9時30分～午後5時  
会場：大阪市立美術館 地下展覧会室(天王寺公園)  
大阪市天王寺区茶白山町1-82 Tel 06-6711-4874

【入場料】 高校生以上 500円(中学生以下は無料)

【主催】 全日本アートサロン絵画大賞展実行委員会・産経新聞社

【共催】 (株)サクラクレパス・(株)ターレンスジャパン・サクラアートサロン・(株)アムス

【後援】 文化庁・東京都・大阪府・公益財団法人教育美術振興会・全日本画材協議会・関西テレビ放送  
ニッポン放送・ラジオ大阪・扶桑社・サンケイスポーツ・夕刊フジ・フジサンケイ・ビジネスアイ・  
サンケイリビング新聞社

【審査員】 <自由表現部門> 建畠 哲(京都芸術大学学長)  
日比野 克彦(アーティスト・東京芸術大学教授)  
山本 容子(銅版画家)

この公募展はアマチュア画家を対象に日本全国からハイレベルな作品が多数選出されています。障がいの有無に関わらず作品を同等に評価し、皆さんにご覧いただく機会を与えてくださったこと、非常に誇らしく感謝しております。もし、機会があれば足を運んでいただければ幸いです。



『Proliferation III』

## 山口裕樹さんの作品がニューヨークにて展示されます



『a passing rain』

昨年『ビッグアイ・アートプロジェクト2012』にて入選された今人そ〜じやの山口裕樹さんの作品『a passing rain』がビッグアイ・アートプロジェクト審査委員長 西村陽平氏(作家・日本女子大教授)の紹介により、アメリカ ニューヨークのキャビン・モーリス・ギャラリーにて展示・販売されることになりました。キャビン・モーリス・ギャラリーでは西村氏が出展され日本グループ展を開催しているそうです。今回のアートプロジェクト作品集を持ってニューヨークに渡り、現地美術スタッフに見せたところ、作品集の中の12点をグループ展へ出展しないか、というお話をいただき実現しました。アール・ブリュットの本場であるニューヨークでのグループ展が実現できたこと、多くの方々のご尽力があつてのことと心より感謝申し上げます。

## 県障害者作品展

ゆらくの里アート活動班「暖」では、アートの持つ力と可能性、ご利用者様の感性や自分を表現する力を発揮して頂き、豊かな生き方や表現の楽しさ、そして、自分を常に輝くことができる活動を目指しサポートしております。

さて、昨年の奈良県障害者作品展では、みごと宇野憲吾さんが優秀賞を受賞されました。題名は「鳥のように空から見た風景」。昨年、世界遺産に選ばれた富士山をバックに高層ビルや建物を精密に細かく描かれた大作です。今回の受賞が宇野さんにとって今後の作品制作の励みに繋がったと思います。



『鳥のように空から見た風景』

愛媛県三浦保愛基金 社会福祉分野公募事業

『ふしぎなせかい展』 入選

愛媛県で初めて開催された、障がいのある方の作品展 『ふしぎなせかい展』に今人の吉原成信さん・内田千恵さん・山口裕樹さんが入選されました。

【会期】平成26年1月28日(木)～2月2日(日)

午前10時～午後6時 (初日は午前11時, 最終日は午後5時まで)

【会場】愛媛県立美術館 県民ギャラリー

愛媛県松山市堀之内 Tel 089-932-0010

【主催】特定非営利法人 アトリエ素心居



山口裕樹 『Flower』



内田千恵 『極楽の花』



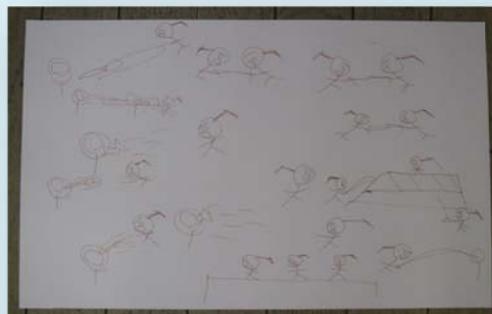
内田千恵 『はばたく』



吉原成信 『school of ninjutsu』

山口裕樹 『てんのつかい』

吉原成信 『たたかい』



10月から11月にかけて、ゆらくの里、今人・我楽、のあからそれぞれ一泊旅行に出かけました。その様子を報告いたします。

### 障害者支援施設

## 「ゆらくの里」

第1班：10月16日～17日

第2班：11月6日～7日

恒例の一泊旅行、今回は和歌山県勝浦方面に行きました。

第1班では、あわや台風による実施も危ぶまれ、出発当日は「大丈夫だろうか？」の状態でお出立しました。目的地に着いてみると天候も落ち着き、一日目を終えることができました。宿泊先のホテル浦島は、「眺めよし！温泉よし！料理よし！」とゆっくりくつろぐことができました。

二日目は晴天にも恵まれ、太地町のクジラ博物館でイルカとクジラのショーやイルカの餌付け体験を楽しみました。



### 多機能型就労支援施設

## 「今人・我楽」

10月17日～18日

第二回目となりました今年の一泊旅行は、多くのご利用者様のご希望で白浜方面に行きました。天候にも恵まれ和歌山マリーナシティ(黒潮市場)・アドベンチャーワールドを存分に楽しむことができました。

宿泊先のホテルでは海が一望できる露天風呂にゆったり浸かり、宴会のカラオケ大会で盛り上がり、日頃の仕事疲れも吹っ飛ばすくらい楽しんで頂けたのではないのでしょうか。

2日目のアドベンチャーワールドではサファリを見学される方、アトラクションを楽しまれる方…それぞれ自由に満喫されていました。



共同生活介護事業  
「のあ」

11月12日～13日

今年のケアホーム1泊旅行はご利用者様の還暦のお祝いも兼ねて大分県別府・湯布院へ行って参りました。天候には恵まれましたが気温が低く、少し肌寒く感じられました。1日目は別府の水族館「うみたまご」・2日目は由布岳を仰ぎながら、湯布院の町並みを観光しました。水族館でのセイウチショーではセイウチに触ることができ、とても喜んでおられました。温泉では疲れた体をゆったりと癒し、美味しい食事堪能されました。「また来年も飛行機乗りたいなあ」などさっそく次の旅行の話で盛り上がっていました。



ふれあいフェスタ

11月3日



今年もゆらくの里日中班では、11月3日に開催された『ふれあいフェスタ』に参加し、各利用者様の手作り作品を出品させていただきました。あいにくの天候ではありましたが、例年通り多くのお客様に来て頂き大盛況となりました。バザー開始時には毎年の陶芸作品を心待ちにされている方々よりご購入いただき、バザー出店の定着を感じました。ファミリーでのご来場が多く、ビーズアクセサリーは特にお子様たちが興味を示されご好評いただきました。

また手作りの風合いが可愛らしいと来年度カレンダーもたくさんご購入いただき、販売に参加した利用者様も喜んで下さるお客様の声を直接聞くことができ、今後の活動に自信を持たれていました。ゆらくの里の店を通してお客様との触れあいをこれからの活動のヒントとして今後の日中活動に反映し、来年もお客様に楽しんで頂けるよう、作品制作に努めたいと思います。今年、「今人・我楽・すみれの里」はブースを広げパン・ラスク・洋菓子・綿菓子の販売を行いました。時折小雨が降るなか、たくさんのお客様にご来場いただき207,630円を売り上げることが出来ました。今年は「すみれの里」が加わり、余暇活動としても楽しんで頂けたようです。

## クリスマス会 ～ テーマ 『羽ばたく』 ～

12月23日



恒例のクリスマス会も今年で11回目。今年も児童課のご利用者様、ボランティア様、家族会様など多数の皆様のご協力を得て開催することができました。

今年度のクリスマス会も公務多忙のなかご出席くださった香芝市長 吉田弘明様のご祝辞から始まりました。



新しい試みとしてプロのマジシャンをお呼びしてマジックショーを行いました。巧みなマジックと話術で会場は大きな笑いに包まれとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

また地域交流の場として、ボランティアの方々にはお手伝い頂いてだけでなく演目『沖縄民謡円舞エイサー』を、畿央大学の学生の方々には『チアリーディング』を御披露いただきました。

いっぽう、エンタランスではHUG・LIVE・ゆらくの里のご利用者様の日々の様子をスライドショーにて上映することで皆さまにご理解を深めて頂ける場を設けました。また、今人、ゆらくの里、ナチュラルカフェモンスターで製作した品物の販売も行ない、ご好評をいただきました。



エンディングでは以和貴会のテーマソングである『和をもって』を会場のみinnで合唱しました。ご利用者様、ご家族様、ボランティア様、地域の方々、そして職員一同テーマソングのタイトル通り『和をもって』会場全体が一体感に包まれた瞬間でした。

皆さまのご協力のおかげで楽しいクリスマス会になりました。本当にありがとうございました。今後も以和貴会をよろしく願いたします。



## 白ゆり会様寄贈

12月13日



『白ゆり会』様からの雑巾の寄贈も今年で21回目となりました。今回は香芝市市議会議員 中山武彦様にも御同伴頂きました。タオルを提供して下さった方、一針一針心を込めて丁寧に縫って下さった方、皆様のお心遣いに感謝しつつ法人各事業で使わせていただきます。『白ゆり会』様は法人の行事の際にいつもご協力くださっています。これからもご利用者様のためにお力を貸していただけますよう、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

## フルコースメニュー

1月3日



ゆらくの里のご利用者様も新年を迎えられ、今年も恒例のフルコースメニューの提供が1月3日に盛大に行われました。スタッフ、アシスタント全員が仮装をして、ご利用者様には、「お・も・て・な・し」が出来たと感じています。スープから始まりサラダ、パン、そしてメインの牛肉フィレステーキ、デザート、紅茶が出てきました。ご利用者様もとても満足そうにステーキを食べられ楽しい食事会のひと時でした。

## 新年会

1月10日

年が明けて、ゆらくの里における最初のイベントである『新年会』が行われました。

午前中はお餅つき。ついたお餅はボランティアの方々に丸めていただき、醤油・きなこで召し上がっていただきました。引き続き昼食は鍋。好みの鍋を囲み楽しい時間を過ごしました。

午後からは映画鑑賞会をはじめ、書初め。一所懸命に半紙に筆を走らせておられました。書き上がった作品は食堂に貼らせていただきました。初詣は志都美神社に参拝され、今年も和やかな雰囲気のまま終わることが出来ました。

今回も7名のボランティアの方々にご協力いただき、大変感謝しております。多くのご利用者様が毎年このイベントを楽しみにしておられます。今後もご利用者様がよりいっそう、楽しんで頂けるような新年会にしていきたいと考えています。



以和貴会 新入職員紹介



いのうえ よしこ  
**井之上 佳子**

所属 我楽(アシスタント)  
(ナチュラルカフェモンステラ)

1 1月からカフェ勤務となりました。接客業務は大好きな仕事です。沢山のご利用者様とのふれあいを大切に頑張ります。



おおにし じゅんこ  
**大西 順子**

所属 今人(アシスタント)  
(ふえり〜ちえ)

1 2月から今人でパン販売を中心に頑張っています。早く仕事を覚えて皆さんと楽しくお仕事ができれば、と思います。



ゆずりお ともみ  
**譲尾 知美**

所属 ゆらくの里(アシスタント)  
(生活支援事業担当)

以前にもゆらくの里で勤務していましたが、1 2月よりまた働かせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

新しい仲間が加わりました。

どうぞよろしくお願いいたします。



《賛助会員ありがとうございました》

多くの方よりご寄附いただきありがとうございました。皆様方からの寄付を施設整備等、有効に活用させていただき、ご利用者のために使用させていただきます。

《ゆらくの里》

井上哲次、川北司朗、川本正矩、谷口融正、宮地恵美子、森田信行、西川猛

《地域事業》

藤井宏美、井伊政光

《業者ほか》

(株)ステップワン、(株)老松園

(順不同、敬称略)

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。寄付金控除を受けるための領収証をご希望の方は「通信欄」にてご連絡ください。

《編集後記》

新年あけましておめでとうございます。今年もご利用者様の笑顔が溢れるような支援を目指し、昨年以上に気持ちを引き締めて頑張っていきたいと思っております。どうぞ本年もよろしくお願いいたします。

発行： 社会福祉法人 以和貴会  
住所： 〒639-0261  
奈良県香芝市尼寺6 1 6 番地  
編集責任者： 理事長 下村 卓司  
Mail： [office@yuraku.or.jp](mailto:office@yuraku.or.jp)  
発行： 平成 26 年 1 月